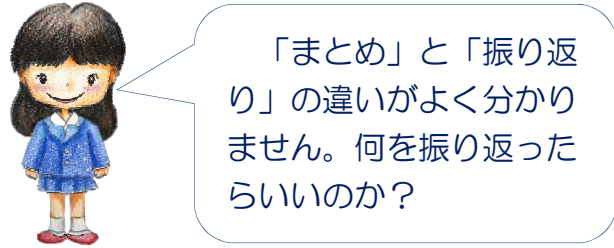


# 自らの学びを振り返る「まとめ」と「振り返り」の工夫

いま、協働・協調的な学びで最も重要視されているのが「振り返り」です！



「まとめ」と「振り返り」の違いがよく分かりません。何を振り返った方がいいのか？

これからの社会に求められる資質・能力を育む協働・協調的な学びの展開を通して、振り返りが「問い」とともに、最重要視しなければならない学習活動であることが分かった。いかに子どもたち自身が自らの学びを見つめられるかがポイントである。

**まとめ** まとめは、**学習内容**に気付かせるものである。主体的に取り組ませる必要がある。

**振り返り** 振り返りは、**学習の方法**に気付かせるものである。また、**自己の変容**に気付かせるものでもある。

「何が分かったのか」「何ができるようになったのか」「どのように分かったのか」「この学びでどう変わったのか」



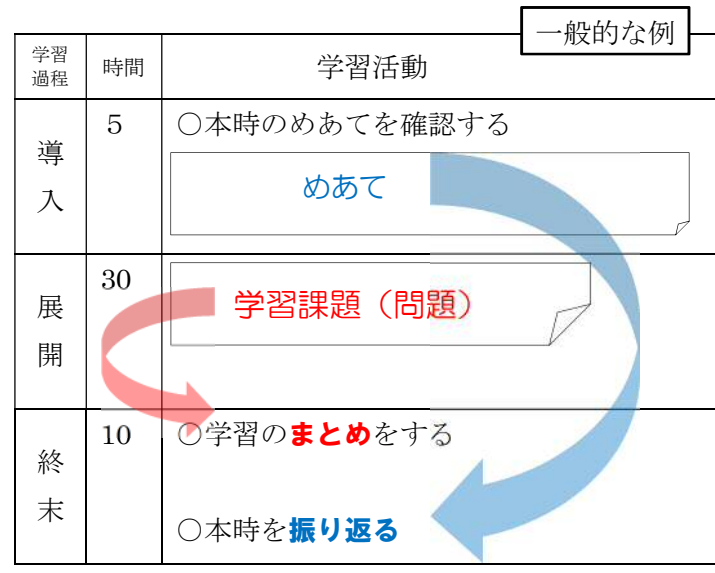
学習者自身が「振り返る」ことで、学びと評価が一体となり、より主体的な学びが充実する。

場面	効果	ねらい	ツール
導入	学びの定着 学びの焦点化 学びの共有	既習事項の振り返り 現在の自分への気付き 課題や見通しの共有	自己評価 プレテスト 他者への説明
展開	学びの修正・改善 学びの自覚 学びの共有	整合性の検証 妥当性の検証 修正・改善	ワークシート 相互評価 他者への説明
終末	学びの自覚 学びの共有 学びの修正・改善 「問い」の連続性	学習内容のまとめ 学習方法のまとめ 感情の変化 自らの変容への気付き 他者とのかかわり これからのこと	ワークシート チェックカード 自己評価 他者への説明

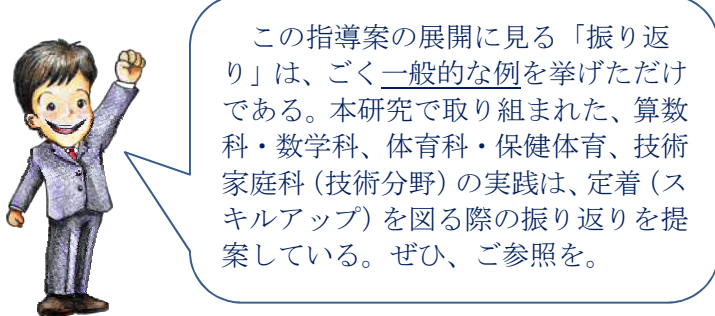
※ 何を振り返るのかを明確にして、ねらう「振り返り」を子どもから引き出す「問い方」が重要である。

本研究では、21世紀に求められる資質・能力の各要素をターゲットにして、協働・協調的な学びでその育成が図られるのかを検証してきたが、その過程で、いかに「振り返り」が重要であるかを再確認することができた。

## 「めあて」「学習課題」と「まとめ」「振り返り」！



※ 多くの授業で、上の図のように、「めあて」と「学習課題（問題）」が提示されます。それに合わせて、「まとめ」と「振り返り」も終末に行われることが多くある。授業者自身がこれらの違いを明確に持っておいた方がよりよい。協働・協調的な学びを充実させ、求められる資質・能力を育成するためにも、校内研修等で共通実践を図って欲しい。



この指導案の展開に見る「振り返り」は、ごく一般的な例を挙げただけである。本研究で取り組まれた、算数科・数学科、体育科・保健体育、技術家庭科（技術分野）の実践は、定着（スキルアップ）を図る際の振り返りを提案している。ぜひ、ご参照を。

ここまで紹介してきた各教科・領域等における研究の詳細については、県立教育センターのホームページで公開しています。ぜひご覧ください。

熊本県立教育センター 検索



## 体育科・保健体育科（小・中・高）

運動の特性に触れながら、運動に親しむ資質・能力、そして関係形成を育む授業の展開についての研究提案

検証後の自由記述によると、「協力」「思いやり」「他者理解」等の「関係形成」に関連のある内容をほとんどの児童生徒が記述していた。「どのような資質・能力を育みたいのか」という授業者のねらいや意図が表れており、学習活動が強く影響した結果である。教科の内容と同様、汎用的資質・能力についても、授業者が「何を育むのか」を明確にして学習活動を組むことが大切である。



## 産業教育（高）

これからの社会に求められる資質・能力を明確化し、実践力を育成する研究提案

○ルーブリックを提示することで、生徒自身が身に付けるべき資質・能力を明確にして学習活動に取り組むことができたこと。○実社会や生活と関連付けた課題を設定することで生徒の意欲の喚起を図れたこと。○異学年との交流など、相手意識、目的意識の高まりにより、生徒の主体的な学びを引き出したこと。これらが、21世紀に求められる資質・能力の育成につながった3つの要因である。



## 道徳（小・中）

多様な指導方法でねらいとする価値に迫りながら、関係形成を育む授業の展開についての研究提案

人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を身に付けることがますます重要であり、道徳教育が、大きな役割を果たす必要がある。そこで、道徳の時間における問題解決的な学習の展開による「関係形成」の育成に取り組んだ。



## 特別活動（中）

学級の成長を目指す話し合い活動を通して、関係形成を育む学級活動の授業の展開についての研究提案

合唱の練習がまとまらなかったとき、本気で意見をぶつけ合って話し合ったから、その後まとまることができたという意見が多く出された。相手に深く入り込んでいく本気の話合いが行われたのだと考える。本音を引き出し、みんなが意欲的に参加する話し合いにするためには、支持的風土、話し合いのスキル、合意形成の手立ては不可欠である。そこから、更なる学級の成長につながっていくことが期待される。



## 総合的な学習の時間（小・高）

探究的な学習のプロセスをスパイラルアップさせ、主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）に関する授業の展開についての研究提案

今年度は、「持続可能な社会づくり」に重点を置き、研究に取り組んだ。その結果、地域における住民、市民としての「立場を与える」ことにつながった。それは、総合的な学習の時間において、地域を題材とする中で見出される様々な問題に児童生徒が対峙し、「自分に何ができるか」という自分事として課題を捉えたことで、郷土への思いや責任が高まった。



## 特別支援教育（小・中・特）

インクルーシブ教育システムを踏まえ、「つながる」をキーワードに協働できる子どもをめざした取組

障がいのある児童生徒の「主体的な学習の展開」を図るためには、その障がいの状態に応じた「合理的配慮」と「多様な学びの場」が大切である。本研究では、「つながる」を意識した多様な学びの場を設定し、個々の障がいの状態に応じた「合理的配慮」を提供することで、児童生徒がそれぞれの持つ力を自ら発揮することができた。

